

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 牛 贯杰 (NIU Guanjie)

論 文 題 目 The Policy of Local Government in the Civil War: the Case of Shanxi Province (1945-1949)
(人民解放戦争における地方政府の政策——山西省の事例 (1945-1949))

論文審査担当者

主 査 名古屋大学大学院経済学研究科教授 隠岐さや香

名古屋大学大学院経済学研究科教授 木越義則

名古屋大学大学院経済学研究科教授 福澤直樹

名古屋大学大学院経済学研究科名誉教授 長尾伸一

論文審査の結果の要旨

1. 本論文の概要

(1) 本論文の目的

本論文は内戦期における中国共産党の農村統治のあり方、およびそれに対抗した国民党系組織の実態を山西省の一次資料に基づいて分析し、中華人民共和国成立にいたる内戦で共産党が勝利した要因を実証的に解明しようとした研究である。

中国共産党の勝因については、すでに様々な観点から我が国を含め、世界的に研究が進められてきた。とくに近年の中国近代史研究においては、共産党が支配層や都市ではなく、中国の基層社会を構成する農村に浸透した経緯の検証が熱い関心の的となっている。本研究はこのような国際的動向の主流ともいえる主題に取り組み、政治、経済、軍事、社会面とは異なる、農民に対する知識・技術の普及と政治的プロパガンダの結合という点からアプローチを試み、新しい視点を提供していると評価できる。

(2) 本論文の構成と内容

本論文は以下のように構成されている。

全体への序論である第一章 **Introduction** では、内戦期における共産党の政策とその勝因についての研究を、中国のみならず欧米および日本について概観し、本論文の課題を明確にするとともに、本論文が依拠している山西省の文書館に収蔵されている諸資料の内容およびその性格を説明し、本論文の資料的根拠を示している。

第二章 **The Management and Formulation of Time by CPC: A Study of The Agricultural Calendar in 1948** では、山西省の共産党が編纂し、ひろく農民層に配布した 1948 年の農事歴を詳細に分析し、中華帝国を含め、多くの権力の基盤の一つであった「時間支配」の問題ととらえて、国家権力による「時間の組織化」を共産党が担ったことを論じている。カレンダーは内戦へ農村資源を動員する手段だったとともに、生産性の向上のために農民への科学、技術の啓蒙を行う役割を担った。その点で暦は政治的プロパガンダでありつつ、近代的な時間と知識の中に農民層を包摂する農村近代化を進める効果的な道具ともなった。

第三章 **The Main Enemy of CPC in Shanxi Province— National Revolutionary Society** では、山西省における共産党の対抗勢力だった国民党系の組織である民族革命同志会の形成、展開およびその組織内容を、当時の資料に基づいて詳細に論じ、共産党が農村への浸透に成功したのに対して、各村落に支部を持ったこの巨大な組織がそれに失敗したことを明示し、農村掌握にかんする国民党系勢力と共産党との取り組みの違いを地方レベルで解明している。

論文審査の結果の要旨

第四章 The Elementary Education of CPC and its Practice in Jinsui Border Area では、山西省の拠点における共産党の初等教育への取り組みを地域レベルで詳細に検討し、内戦期においても共産党が農民子弟の教育を推進し、農民層と地方知識人の組織化に成功したことを具体的に示している。

2. 本論文の評価

本論文は以下のような学術的貢献を行っていると考えられる。

(1) 本論文は山西省における内戦期中国共産党の地方統治に関する貴重な一次資料を発掘、紹介し、地域レベルでの農村統治の実態の解明に貢献した。

(2) とりわけ共産党が編纂し、農民に配布したカレンダーの発掘、分析は、マルクス主義を政治哲学とする中国共産党が「暦の支配者」という伝統的帝権の役割を担いつつ、それを利用して政治宣伝を行い、その結果農村資源の国民党との内戦への動員に成功したことを明らかにし、従来照明を当てられなかった農村統治の一端を解明した(第二章)。

(3) またこのカレンダーには伝統的技術と近代科学の知識を当時の農民の教育水準に合わせて巧みに混淆させ、農業生産性の改善と農民生活の向上を知識の普及によって達成するという役割があった。これは本論文が資料に基づき克明に解明した、内戦のさ中に推進された初等教育政策(第四章)とともに、共産党の農村統治には農村現代化の意義があったことを示唆している。

(4) 本論文は他方で民族革命同志会という、当該地域の国民党系の組織の実態を描き出している。それは共産党に対抗できる大きさを持ちつつ、それに匹敵する政治的影響力を持ち得なかった(第三章)。このことは国民党政権が都市の工業と金融の近代化に関心を持ちつつ、農村統治については相対的に無関心で伝統的な役割を担うだけだったことにかかわっていた(第一章)。それに対して共産党は農村の現代化を担うことで、農民と地方知識人などを掌握していったと考えられる。

(5) 以上の点で本論文は、中国共産党の内戦期の農村統治の内実を国民党系組織の比較で、農村啓蒙という点から地域の実情に基づいて解明し、「農村近代化の担い手」としての共産党の役割を実証し、内戦期中国共産党の農村掌握の実態の重要な一面に新しい光をあてている。それは現代中国の「五つの現代化」路線にも結び付き、その点で中国現代史を再考するうえでも価値がある一つの視点を示した学問的貢献と評価できる。

論文審査の結果の要旨

上記のような学術的な意義の一方で、本論文はあくまで一地域の農村統治の一面を扱うにとどまっている。本論文が示唆する論点を一般化するためには、さらに他の諸地域の実態の解明と、従来研究されたような農村統治の他の側面との比較・総合を果たす必要があり、その点で内戦期共産党の研究としては大きな限界を持っている。しかしこの点は一次資料にもとづく個別研究としては当然の制約であって、本論文の学術的価値を損なうものではない。

3. 結論

以上の評価に基づき、われわれは本論文が博士（経済学）の学位に値するものであることを認める。

2022年2月16日

論文審査担当者

主査 名古屋大学大学院経済学研究科教授 隠岐さや香
委員 名古屋大学大学院経済学研究科教授 木越義則
委員 名古屋大学大学院経済学研究科教授 福澤直樹
委員 名古屋大学大学院経済学研究科名誉教授 長尾伸一

論文審査の結果の要旨